

新宮山彦ぐるーぶ第2019回13

春季連休中の行仙宿への来宿者の対応と補修作業など

◇実施日：2019年05月02日(木)～04日(土)

◇参加者：2日 沖崎吉信、濱野兼吉、畑林秀味、畑林清子、

大江徳子、中川治平、志岐敬、山本直子、
梶野照雄。

3日 志岐敬、山本直子、岡崎謙一、片山久晴。

4日 志岐敬、山本直子、岡崎謙一、片山久晴、

川島功、生熊敏男、乾克己、山口泰宏、
野崎肇、沖崎吉信、梶野照雄。

参加者16名、延24名。

5月02日(木)

晴

(来宿者26名・テント2張)



モノレール下りて来る 荷上げの缶ビールや食材 第二ベンチ上で

8時30分、近鉄・下市口駅で、梶野車に志岐、山本が合流し、モノレール下に10時30分到着。

沖崎さんが迎えにモノレールで下り来てくれる。ビール3ケースとトイレロール紙等を荷上げ。また、新宮から六田まで順峯奥駈縦走する青木さんから、2日夕食・3日朝食・3日昼食をタップり賄ってとの要請があり、志岐が昔懐かしいキスリングで荷上げする。

11時半に小屋到着後、沖崎さんから小屋当番の引き継ぎを受ける。ビール、コーラ、お茶販売用の釣り銭を預かる。

昼食後、志岐さん水汲みへ。小屋を通過する登山者から、コーラや飲み物を分けてほしいと求める声が多かったが、コーラは既に売り切れで、梶野さんが夕方降りて、再度コーラとガソリンを荷上げしてくれた。

15時前くらいから今夜、小屋泊まりの人たちが、到着し始める。29日に吉野を出発して歩き出した人が多く、雨に濡れたテントを干す人もあった。早く着いた2人には水汲みを体験してもらおう。

15時頃から、青木さんから依頼されていた夕食準備に取りかかる。5合炊きの電気炊飯器を持参(荷上げは沖崎さん)したが、管理棟のガス炊飯器を試してみた。やや芯が残るくらいがあり、長めに米を漬け込んだ方がよさそうだ。

17時くらいから薪ストーブに火を入れ始めた。18時くらいには、小屋は20人を超えて、だんだん満員状態に。

18時くらいから、宿泊のみなさんが食事をしだした時に、畑林さん差し入れのまぐろのカマと剥き身(せせり)を、宿泊者のみなさんと分けてあっていた。まぐろのカマは、炭火で焼く。小屋泊まりの方々は、大いに喜ばれていた。また、夕食にすじ肉カレーをたくさん炊いたので、これもみなさんに振る舞った。

梶野さんは18時半くらいに下山。

夜は、発泡酒がよく売れて、発泡酒も残りわずかとなる。

日が暮れてからの到着者も数人あり、最終の到着者は19時30分をまわっていた。20時に小屋を消灯。

志岐、山本、青木、坂田さんは、管理棟で就寝。

5月03日(火)

快晴、16時頃から雷雨・ヒョウのち晴

(来泊者27人 テント1張)

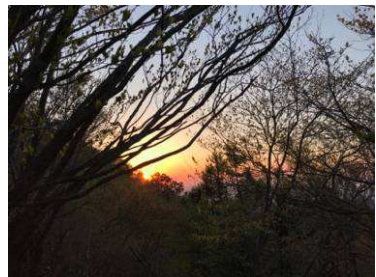
早いものは4時位から出発。朝、志岐さんが4時に薪ストーブに火を入れに行く。昨晚からの宿泊者は、7時半には全員が出發。



2日夜・宿内の状況



3日朝の様子



朝焼け

朝食後、小屋内外の清掃、トイレ清掃、ゴミ焼却などを済ませる。昨日から今朝方にかけて、水を分けて欲しいという要望が多く、汲み置きタンクが3つを残してカラになっていたので、志岐が水汲みに行く。

9時くらいから、小屋で休憩をして行く人が到着し始める。この人たちも、みんなコーラを売って欲しいという要望があり、昼くらいには、昨夕、梶野さんが荷揚げしてくれたコーラが無くなる。発泡酒も時々求められる。

昼過ぎに小屋を通過する青年が、休憩の時「膝を痛めた」と訴える。笠捨山を目指すも先に行けるか不安だというので、無理をしないよう声をかける。一旦は、出発するがすぐに引き返して来たので、浦向に下りる道を説明する。家族に浦向に迎えに来てもらうように連絡していた。

14時くらいに、体験参加の生駒市の岡崎氏と奈良市の片山氏が到着。

小屋の周りを案内し、志岐さんと一緒に水汲みに行ってもらおう。14時くらいに、若者3人のグループが到着。2泊3日で奥街道を歩くという。まだまだ元気がありそうなので、水汲みをお願いする。その後も、早く着いた若者数人に、水汲みをお願いし、夕

方近くには、水ポリタンクがすべて満タンとなった。

16時過ぎに急に空が暗くなり始めたと思ったら、落雷とともにヒョウが激しく降り始め、17時前には雨にかわり、急に気温が下がり始める。夜19時半には気温が1度まで下がった。

この日も、日が暮れてからの来宿者が次々にあり、予約を含めて満員状態になった。

最終は、20時頃に来られた男性。疲労困憊状態で、食事も飲み物も受け付けない状態で、とりあえず志岐さんがザックを運び入れ、寝床を作って休ませる。

この日も20時消灯。と言っても発電機が朝から動かず、電気もLEDもまったく使えなかったので、日暮れとともに薪ストーブと各自のヘッドランプの灯りのみとなった。

志岐、山本、岡崎、片山は、管理棟でしばし歓談し就寝。

5月04日(土) 晴 (来宿者9名 テント4張)

翌朝4日も、4時頃に薪ストーブに火を入れに行き、出発する人たちを送り出す。昨晩、疲労困憊で到着した男性は、結局8時半頃まで起きられず、ようやく起きることができて、「これから玉置神社までを目指す」というが、とてもそんな状態ではない様子から、志岐さんが今日下山する岡崎・片山両氏と一緒に下山することを説得し、下山することになった。

みんなで毛布のたたみ直し、小屋内外の清掃とトイレ清掃、ごみ焼却などを行う。この日も小屋を通過する人達から、コーラやお茶の販売を求められる。

この日は、川島、生熊、乾・山口、野崎さんと日帰りの沖崎、梶野さん達が上がってくる予定になっていたもので、朝のうちに、岡崎、片山、山本の3人で、行仙岳の頂上に出かけた。

みなさんが到着後、男性陣は作業に出かける。この日も21世紀の森や玉置神社をめざして歩く方、多数おられた。

(記：志岐、山本。写真：志岐)